

居住中物件での施工後の 水槽の魚の死亡

トラブル事例 フロアコーティング

問題

居住中の物件で床コーティング（ガラス）を施工後、お客様より水槽の魚が死んだとクレームが来ました。代金の返金にて対応されました。

協会の見解

要因特定の難しさ

コーティング施工と魚の死亡との因果関係を科学的に証明することは非常に困難です。魚の死亡には水質・水温の変化、ストレス、寿命、病気など様々な要因が考えられ、施工と同時期に死亡したとしても、それがコーティングに起因するものか他の要因によるものかを特定することは難しく、一概に原因を断定することはできません。



VOC の影響

M ガラスコーティング剤の SDS（安全データシート）によると、水生環境有害性は「区分に該当しない」と判定されています。魚に致命的な影響を与えるには極めて高濃度が必要であり、通常の施工環境では現実的にほぼ起こり得ません。



施工時のストレス

施工作业中の振動、騒音、照明の変化、人の出入りなどの環境変化が魚にストレスを与えた可能性があります。ストレスを受けると免疫機能が低下し、病気を発症しやすくなります。



水温の変動

季節の変わり目や空調使用による水温の急激な変化、ヒーターの故障による低温または過加熱、直射日光による水温上昇などが考えられます。



魚自体の要因

寿命（小型魚は 2～5 年程度）、購入時から潜伏していた病気の発症、加齢による免疫力や体力の低下、遺伝的な要因や先天性な疾患などが考えられます。



水質の問題

アンモニアや亜硝酸塩の蓄積、pH の急激な変動、溶存酸素量の低下水換え時のカルキの影響など、水質に関する要因で魚が死亡することは珍しくありません。

ペット飼育環境での施工時の予防策

事前の ヒアリングと説明

施工前のお打ち合わせ時に、室内で飼育されているペットの有無を必ず確認してください。特に魚類、小鳥、爬虫類、甲殻類などは環境の変化に敏感な場合があります。水槽や鳥かごが施工場所と同じ空間にある場合は、「施工中・施工後は溶剤成分が揮発します。ペットへの影響はほぼないと考えられますが、念のため水槽や鳥かごの移動、または十分な換気をお願いいたします」と事前にご説明ください。

施工時の対策

(お客様にご協力いただく事項)

可能であれば、施工する部屋から別の部屋へ水槽を移動していただくことが最も確実な対策です。移動が困難な場合は、水槽にフタをしっかりと閉め、隙間があればラップなどで覆い、揮発成分が水面に触れないよう密閉していただくとういことです。ただし、エアレーション(ぶくぶく)を使用している場合は、外気を取り込むため完全な密閉は難しい点をご説明ください。施工する部屋と水槽のある部屋を扉で仕切り、揮発成分が流れ込まないようにしていただくことも有効です。

施工後の対策

施工完了後は、窓を開け、可能であれば換気扇やサーキュレーターを使用して、室内の空気を入れ替えてください。揮発成分を速やかに室外へ排出することで、室内環境をより早く通常の状態に戻すことができます。施工後24~48時間は特に意識して換気を行っていただくようお願いしてください。水槽を密閉していた場合は、十分な換気を行った後(目安として24時間以上経過後)に養生を解除していただくようご案内ください。

今後のトラブル防止に向けて

施工前のヒアリングシートに「ペットの有無」の確認項目を追加し、水槽などがある場合は注意事項を記載した書面をお渡しし署名をいただくことをお勧めします。口頭だけでなく、書面やメールなど記録に残る形で説明を行うことで、万が一同様の事態が発生した場合でも、「事前に説明を受けていた」という認識を共有でき、トラブルの深刻化を防ぐことができます。お客様との信頼関係を大切にしながら、丁寧なコミュニケーションを心がけていきましょう。

